

Hitachi Command Suite

# Compute Systems Manager Software

## CLI リファレンスガイド

3020-3-V93

## 対象製品

Hitachi Compute Systems Manager 7.4.1

適用 OS の詳細については「ソフトウェア添付資料」でご確認ください。

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

VMware<sup>®</sup> は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Hitachi Global Link Manager は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE<sup>®</sup> ソフトウェアを搭載しています。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>.

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <[rse@engelschall.com](mailto:rse@engelschall.com)> for use in the mod\_ssl project (<http://www.modssl.org/>).



## 発行

2013 年 3 月 3020-3-V93

## 著作権

All Rights Reserved. Copyright © 2013, Hitachi, Ltd.

# 目次

はじめに.....	7
対象読者.....	8
マニュアルの構成.....	8
マイクロソフト製品の表記について.....	8
このマニュアルで使用している記号.....	9
<b>1. HCSM CLI の概要.....</b>	<b>11</b>
1.1 HCSM CLI の概要.....	12
1.2 HCSM CLI 環境設定とは.....	12
1.3 HCSM CLI をダウンロードして設定する.....	12
<b>2. HCSM CLI を使用する.....</b>	<b>15</b>
2.1 コマンド一覧.....	17
2.2 コマンドの実行結果をファイルに出力する.....	17
2.3 コマンド権限.....	18
2.4 configure.....	19
2.5 login.....	19
2.6 logout.....	20
2.7 ping.....	21
2.8 help.....	21
2.9 GetAlerts (getalerts) .....	23
2.10 GetHost (gethost) .....	24
2.11 GetHostAlert (gethostalert) .....	25
2.12 GetHostCPU (getcpu).....	26
2.13 GetHostFCNetwork (getfc) .....	27
2.14 GetHostFileSystem (getfilesystem) .....	28
2.15 GetHostIPNetwork (getip) .....	29
2.16 GetHostMemory (getmemory) .....	30
2.17 GetHostOs (getos).....	31
2.18 GetHostPCI (getpci) .....	32
2.19 GetHostRemoteManagement (getrmtgmt) .....	33
2.20 GetTaskInfo (gettaskinfo) .....	34
2.21 PowerOFF (poweroff) .....	35
2.22 PowerON (poweron) .....	36

2.23 RebootOS (rebootos) .....	38
2.24 ShutdownOS (shutdownos) .....	39
3. トラブルシューティング .....	41
3.1 JRE のトラブルシューティング .....	42
付録 A このマニュアルの参考情報 .....	43
A.1 関連マニュアル .....	44
A.2 このマニュアルでの表記 .....	44
A.3 KB (キロバイト) などの単位表記について .....	45
用語解説 .....	47
索引 .....	51



# 表目次

表 2-1 HCSM CLI のコマンド.....	17
表 2-2 HCSM CLI のコマンド.....	18





# はじめに

このマニュアルは、Hitachi Compute Systems Manager の CLI の使用方法について説明したものです。

以降、このマニュアルでは、Hitachi Compute Systems Manager を HCSM と表記します。

- 対象読者
- マニュアルの構成
- マイクロソフト製品の表記について
- このマニュアルで使用している記号

# 対象読者

このマニュアルは、HCSM の CLI を使用してサーバ管理システムを運用および管理する方を対象としています。次のことについて理解していることを前提としています。

- 前提 OS に関する基本的な知識

# マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

## 1. HCSM CLI の概要

HCSM CLI の環境変数、CLI のダウンロードおよびインストール方法について説明しています。

## 2. HCSM CLI を使用する

HCSM CLI のコマンドとオプションについて説明しています。

## 3. トラブルシューティング

HCSM CLI のトラブルシューティング情報について説明しています。

## 付録 A. このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

## 用語解説

HCSM CLI を使用するために理解しておきたい用語の意味について説明しています。

# マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Hyper-V	Microsoft® Hyper-V®
Windows	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft® Windows® 7</li><li>• Microsoft® Windows® 8</li><li>• Microsoft® Windows Server® 2003</li><li>• Microsoft® Windows Server® 2003 R2</li><li>• Microsoft® Windows Server® 2008</li><li>• Microsoft® Windows Server® 2008 R2</li><li>• Microsoft® Windows Server® 2012</li><li>• Microsoft® Windows Vista®</li><li>• Microsoft® Windows® XP</li></ul>
Windows Server 2003	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft® Windows Server® 2003</li><li>• Microsoft® Windows Server® 2003 R2</li></ul>
Windows Server 2008	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft® Windows Server® 2008</li><li>• Microsoft® Windows Server® 2008 R2</li></ul>
Windows Server 2008 R2	Microsoft® Windows Server® 2008 R2



表記	製品名
Windows Server 2012	Microsoft® Windows Server® 2012

## このマニュアルで使用している記号




このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。


記号	意味と例
[ ] (角括弧)	GUI 操作の説明 メニュータイトル、メニュー項目、およびボタンの名称を示します。メニュー項目を連続して選択する場合は、[ ] を「-」(ハイフン) でつないで説明していません。 キー操作の説明 キーの名称を示します。
< > (山括弧)	可変値であることを示します。

コマンドの書式の説明では、次に示す記号を使用しています。

記号	意味と例
 (ストローク)	複数の項目に対して項目間の区切りを示し、「または」の意味を示します。 (例) 「A B C」は、「A, B, または C」を示します。
{ } (波括弧)	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず一組の項目を選択します。項目と項目の区切りは「 」で示します。 (例) 「{A B C}」は、「A, B, または C のどれかを必ず指定する」ことを示します。
[ ] (角括弧)	この記号で囲まれている項目は、任意に指定できます (省略できます)。 (例) 「[A]」は、「必要に応じて A を指定する」ことを示します (必要でない場合は、A を省略できます)。 「[B C]」は、「必要に応じて B, または C を指定する」ことを示します (必要でない場合は、B および C を省略できます)。
... 点線 (リーダー)	記述が省略されていることを示します。この記号の直前に示された項目を繰り返し複数個指定できます。 (例) 「A,B,C...」は、「A と B の後ろに C を複数個指定できる」ことを示します。

このマニュアルでは、次に示すアイコンを使用します。

アイコン	ラベル	説明
	重要	重要情報や追加情報を説明します。
	参考	より効率的に業務を行うために、知っておくと役に立つ情報や指針となる情報を説明します。
	注意	作業する上で注意しなければいけないことを説明します。

アイコン	ラベル	説明
	警告	重大なエラーを避けるために、注意しなければいけないことを説明します。

# HCSM CLI の概要

Hitachi Compute Systems Manager のコマンドラインインターフェース (HCSM CLI) とは、管理サーバに対して、管理クライアントから遠隔で実行できるコマンドのことです。これらのコマンドは、HCSM の GUI と同じ機能を持っています。

- 1.1 HCSM CLI の概要
- 1.2 HCSM CLI 環境設定とは
- 1.3 HCSM CLI をダウンロードして設定する

## 1.1 HCSM CLI の概要

コマンドラインプロンプトからコマンドを実行すると、HCSM CLI が管理サーバと通信し、管理対象リソースに要求を送信します。要求を送信すれば設定情報を入手できます。



**重要** HCSM CLI を使用すると、管理対象ホストの情報を参照できますが、ホストの設定はできません。HCSM CLI は、管理対象ホストの電源 ON、電源 OFF、シャットダウン、および再起動に使用できます。

## 1.2 HCSM CLI 環境設定とは

HCSM CLI には 2 つの環境変数があります。

- HCSM\_CLI\_JRE\_PATH  
JRE のインストールパスを指定する変数です。
- CSMHOME  
設定ファイルのパスを指定する変数です。  
同一のクライアント上で複数のユーザーが HCSM CLI を使用する場合、ユーザーごとに異なる CSMHOME ディレクトリを指定する必要があります。  
CSMHOME が指定されていない場合、設定ファイルは HOME 環境変数または USERPROFILE で指定されたディレクトリに保存されます。  
HCSM CLI を実行すると、次の順に従って、設定ファイル内から変数が検索されます。
  - a. CSMHOME
  - b. HOME
  - c. USERPROFILE

最初に検索された設定ファイルが読み込まれます。

## 1.3 HCSM CLI をダウンロードして設定する

CLI をインストールするには、次の手順に従ってください。

1. Compute Systems Manager Web クライアントメニューで、[ツール] - [ダウンロード] の順に選択します。
2. JRE6 をインストールしていない場合、[Compute Systems Manager Software Deployment] ページの [JRE] 行で [Oracle (Website)] をクリックします。  
[Oracle JRE6 のダウンロード] ページが表示されます。
3. Oracle のライセンス契約に同意し、JRE6 update 27 以降を選択します。
4. [Save] を選択して、JRE の一時ダウンロード先ディレクトリを選択します。
5. 一時ダウンロード先ディレクトリで [Java] アイコンをクリックして、JRE6 をインストールします。
6. [Compute Systems Manager Software Deployment] ページの [CLI] 行で、[Windows] 列の [Download] をクリックします。
7. [Save] を選択して一時ダウンロード先ディレクトリを選択し、CSMcli\_win.exe ファイルを保存します。
8. [CSMcli\_win.exe] アイコンをダブルクリックします。  
[Hitachi Self-Extractor] ウィンドウが表示されます。

9. [Expand] をクリックして、HCSM CLI をインストールするディレクトリを選択します。  
CSMcli\_win.exe に含まれるものを次に示します。

- csm.jar
- dolphinsoap.jar
- csm.bat
- setvars.bat
- home¥.csmrc

10. HCSM CLI をインストールしたディレクトリに移動します。

11. 次の環境変数を設定します。

- 環境変数「HCSM\_CLI\_JRE\_PATH」には、JRE6 のインストール先ディレクトリを指定してください。指定例を次に示します。

```
HCSM_CLI_JRE_PATH = C:¥Program Files¥Java¥jre6
```

- 環境変数「CSMHOME」には、「HCSM CLI をインストールしたディレクトリ¥Home」を指定してください。指定例を次に示します。

```
CSMHOME = %~dp0home
```

環境変数「CSMHOME」を指定しない場合、%USERPROFILE%が使用されます。



**重要** 環境変数を設定するには、[マイコンピュータ] - [プロパティ] - [詳細設定] の順にクリックします。[環境変数] をクリックして、新しいユーザー変数を作成します。

---

12. **csm.bat configure** コマンドを実行します。

13. 指示に従って.csmrc ファイルを作成します。例えば、次のように指定します。

```
client1>csm configure
KASV23804-I The .csmrc file in "C:¥user¥fred" (CSMHOME) has been read.
HCSM server host name [localhost]:
Use SSL (y/n) ? [n]:
HCSM server port number [23015]:
KASV23800-I The HCSM server is up and running.
Overwrite existing .csmrc file at "C:¥user¥fred¥.csmrc" (y/n) ? [n]:y
client1>
```

14. **login** コマンドを実行して CLI にログインします。

#### 関連コマンド

- [2.4 configure](#)
- [2.5 login](#)



# HCSM CLI を使用する

HCSM CLI のコマンドについて説明します。

- 2.1 コマンド一覧
- 2.2 コマンドの実行結果をファイルに出力する
- 2.3 コマンド権限
- 2.4 configure
- 2.5 login
- 2.6 logout
- 2.7 ping
- 2.8 help
- 2.9 GetAlerts (getalerts)
- 2.10 GetHost (gethost)
- 2.11 GetHostAlert (gethostalert)
- 2.12 GetHostCPU (getcpu)
- 2.13 GetHostFCNetwork (getfc)
- 2.14 GetHostFileSystem (getfilesystem)
- 2.15 GetHostIPNetwork (getip)
- 2.16 GetHostMemory (getmemory)
- 2.17 GetHostOs (getos)
- 2.18 GetHostPCI (getpci)

- ❑ 2.19 GetHostRemoteManagement (getrmtgmt)
- ❑ 2.20 GetTaskInfo (gettaskinfo)
- ❑ 2.21 PowerOFF (poweroff)
- ❑ 2.22 PowerON (poweron)
- ❑ 2.23 RebootOS (rebootos)
- ❑ 2.24 ShutdownOS (shutdownos)



## 2.1 コマンド一覧

HCSM CLI には、次のコマンドがあります。



重要 コマンドは、**cs**m 文字列のあとに入力する必要があります。次に例を示します。  
**cs**m login

表 2-1 HCSM CLI のコマンド

コマンド	説明
configure	HCSM の管理クライアントを設定します。設定した管理クライアントを使用して、管理サーバ上の HCSM を遠隔操作できるようになります。
login	管理サーバとの CLI セッションを開始します。
logout	管理サーバとの CLI セッションを終了します。
ping	管理サーバとの通信状態を確認します。
help	すべてのコマンドまたは特定のコマンドのヘルプ情報を表示します。
GetAlerts	すべての管理対象ホストに関するアラート情報を取得します。
GetHost	すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する要約情報を取得します。
GetHostAlert	すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関するアラート情報を取得します。
GetHostCPU	すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する CPU の詳細情報を取得します。
GetHostFCNetwork	すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する FC (Fibre Channel) の詳細情報を取得します。
GetHostFileSystem	すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関するファイルシステムの詳細情報を取得します。
GetHostIPNetwork	すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する LAN の詳細情報を取得します。
GetHostMemory	すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関するメモリの詳細情報を取得します。
GetHostOs	すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する OS 情報を取得します。
GetHostPCI	すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する PCI デバイスの詳細情報を取得します。
GetHostRemoteManagement	LOM が設定された管理対象ホストまたは特定のホストのデバイス情報を取得します。
GetTaskinfo	登録されたすべてのタスクの状態と ID を取得します。
PowerOff	特定のホストまたは複数の管理対象ホストの電源を OFF にします。
PowerOn	特定のホストまたは複数の管理対象ホストの電源を ON にします。
RebootOS	特定のホストまたは複数の管理対象ホストを再起動します。
ShutdownOS	特定のホストまたは複数の管理対象ホストをシャットダウンします。

## 2.2 コマンドの実行結果をファイルに出力する

HCSM CLI コマンドの実行結果はコマンドプロンプトに表示されます。なお、実行結果をファイルへリダイレクトすることで、コマンドの実行結果をファイルに出力できます。

次に例を示します。

```
client1>cs m gethost hostname=HostSystem1 > ファイル名
```

パス名を指定しない場合は、カレントディレクトリにファイルが作成されます。次に例を示します。

```
client1>csm gethost hostname=HostSystem1 > hostinfo.txt
```

## 2.3 コマンド権限

HCSM ユーザーに割り当てられる権限を、次に示します。

- Admin : 管理対象リソースの登録, 設定変更, 管理対象リソースの管理・参照ができます。
- Modify : 管理対象リソースの管理, 管理対象リソースの参照ができます。
- View : 管理対象リソースを参照できます。
- User Management : すべての Hitachi Command Suite (HCS) 製品に共通の権限で, HCS ユーザーを管理できます。



重要 User Management は, ほかの権限と同時に割り当てることができます。

HCSM CLI コマンドと, そのコマンドを実行できる権限の種別を, 次に示します。

表 2-2 HCSM CLI のコマンド

コマンド	権限			
	Admin	Modify	View	User Management
configure	○	○	○	○
login	○	○	○	○
logout	○	○	○	○
ping	○	○	○	○
help	○	○	○	○
GetAlerts	○	○	○	×
GetHost	○	○	○	×
GetHostAlert	○	○	○	×
GetHostCPU	○	○	○	×
GetHostFCNetwork	○	○	○	×
GetHostFileSystem	○	○	○	×
GetHostIPNetwork	○	○	○	×
GetHostMemory	○	○	○	×
GetHostOs	○	○	○	×
GetHostPCI	○	○	○	×
GetHostRemoteManagement	○	○	○	×
GetTaskinfo	○	○	○	×
PowerOff	○	○	×	×
PowerOn	○	○	×	×
RebootOS	○	○	×	×
ShutdownOS	○	○	×	×

(凡例)

- : コマンドを実行できる
- × : コマンドを実行できない

## 2.4 configure

**configure** コマンドを使用して、Hitachi Compute Systems Manager (HCSM) の管理クライアントを設定します。設定した管理クライアントを使用して、管理対象ホストを遠隔監視できるようになります。

**configure** コマンドは、管理サーバへの簡単なアクセスチェックも実行します。管理サーバが起動していない場合、コマンドの実行を継続するか応答要求があります。

### 権限

Admin, Modify, View, User Management

### 構文

```
csm configure
```

### オプション

なし

### 例

**configure** コマンドで変更された設定の例を次に示します。

```
client1>csm configure
KASV23804-I The .csmrc file in "C:¥user¥fred" (CSMHOME) has been read.
HCSM server host name [localhost]:172.17.79.47 Use SSL (y/n) ?[n]:
HCSM server port number [23015]:
KASV23800-I The HCSM server is up and running.
Overwrite existing .csmrc file at "C:¥user¥fred¥.csmrc" (y/n) ?[n]:
```

### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

### 関連コマンド

なし

## 2.5 login

**login** コマンドを使用して、管理クライアントから管理サーバにログインし、CLIセッションを開始します。

管理サーバに接続したあと、HCSM CLI を使用して任意の管理対象リソースを監視したり、電源操作を実施したりできるようになります。

ログインセッションがアイドル状態のまま (サーバ管理者が設定した) 特定の時間が過ぎると、セッションは時間切れとなり、システムからログオフされます。

### 権限

Admin, Modify, View, User Management

## 構文

```
csm login [-user username] [-password password]
```

## オプション

**login** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
user	ログインするユーザー名です。
password	ログインするユーザーのパスワードです。

## 例

```
client1>csm login
HCSM[http://localhost:23015/ComputeSystemsManager] Login :admin
Password :
KASV23801-I Login successful.
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

- 2.6 logout

# 2.6 logout

**logout** コマンドを使用して、HCSM での CLI セッションからログアウトします。

## 権限

Admin, Modify, View, User Management

## 構文

```
csm logout
```

## オプション

なし

## 例

```
client1>csm logout
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

- 2.5 login

## 2.7 ping

**ping** コマンドを使用して、管理サーバとの通信状態を確認します。

**ping** コマンドは、管理サーバにアクセスしてバージョン情報を取得します。このコマンドは、環境が正しく設定されていること、管理サーバが起動していることを確認するために使用します。

### 権限

Admin, Modify, View, User Management

### 構文

`csm ping`

### オプション

なし

### 例

管理サーバとの通信状態を確認するコマンドを、次に示します。

```
client1>csm ping
Pinging server at http://172.17.79.47:23015/ComputeSystemsManager:
Response time :1656msec
Timestamp at server :2011/10/11 16:09:39
Product Version :7.2
Supported protocol version range :from 1 to 1
Deprecated protocol version :equal or below 0
```

### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

なし

## 2.8 help

**help** コマンドを使用して、すべてのコマンドまたは特定のコマンドのヘルプ情報を表示します。

特定のコマンドを指定しないで **help** コマンドを実行すると、コマンド一覧が表示されます。

### 権限

Admin, Modify, View, User Management

### 構文

`csm help [command]`

## オプション

help コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
command	指定したコマンドに関するヘルプを標準出力に表示します。

## 例

次のコマンドを使用して、すべてのコマンド一覧を表示します。

```
Client>csm help
```

```
Command shell to issue commands to the CSM server.
```

```
usage :csm [<subcommand> <args...>]
```

```
This will run one or more subcommands.
```

```
If you are connecting to a CSM server on the localhost, no configuration is necessary.
```

```
To access a remote CSM server, specify the server host by executing a "configure" command.
```

```
After specifying the host use "csm ping" to test communication with the server. Then use "csm login" to establish a session.
```

```
Available subcommands (short forms shown in parentheses):
```

```
configure
help
ping
login
logout
GetHost (gethost)
GetHostAlert (gethostalert)
GetHostCPU (getcpu)
GetHostFCNetwork (getfc)
GetHostFileSystem (getfilesystem)
GetHostIPNetwork (getip)
GetHostMemory (getmemory)
GetHostRemoteManagement (getrmtgmt)
GetHostOs (getos)
GetHostPCI (getpci)
GetAlerts (getalerts)
GetTaskInfo (gettaskinfo)
RebootOS (rebootos)
ShutdownOS (shutdownos)
PowerON (poweron)
PowerOFF (poweroff)
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

なし

## 2.9 GetAlerts (getalerts)

**GetAlerts** を使用して、すべての管理対象ホストから次の情報を取得します。

- 対策中 (In progress) のアラート
- 解決 (Resolved) のアラート
- 未対処 (Unconfirmed) のアラート
- 特定の日以降に生成されたアラート
- アラートの最大表示件数

フィルタオプションを指定しないで **GetAlerts** コマンドを実行すると、すべての管理対象ホストのアラート詳細を取得できます。特定の状態のアラート一覧を表示するには、**status** オプションを使用します。



重要 **GetAlerts** コマンドの代わりに、**getalerts** という別名も使用できます。

### 権限

Admin, Modify, View

### 構文

```
csm {GetAlerts | getalerts} [-count] [-describe] [status=[RESOLVED | INPROGRESS | UNCONFIRMED]] [datefilter=YYYY/MM/DD] [countfilter=count] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

### オプション

**GetAlerts** を使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
count	アラートの件数を表示します。
describe	<b>GetAlerts</b> コマンドの各属性についての情報を表示します。
status	指定の状態のアラートを表示します。このオプションに指定できる値は、RESOLVED、INPROGRESS、および UNCONFIRMED です。デフォルトでは、Unconfirmed のアラートが表示されます。
datefilter	YYYY/MM/DD の形式で入力した日付以降のアラートを表示します。
countfilter	取得するアラートの最大数を制限します。デフォルトでは、すべてのアラートが取得されます。このオプションを使用すると、データベースから取得できるアラートのうち、最新のアラートから数えて <i>count</i> に指定したアラート数分だけ表示されます。
format	<b>GetAlerts</b> の出力を xml, csv, またはヘッダなし csv の形式で、標準出力に表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

### 例

次のコマンドを使用して、すべての管理対象ホストに関する最新のアラート 2 件を client1 の標準出力に表示します。

```
client1>csm GetAlerts countfilter=2
An instance of RecievedAlertInfo
  alertDescription:Chassis
  alertLevel:Error
```

```
name:DEMO-SYS-8-48
alertId:0xff00
occurredTime:2011-09-01 17:27:00
modifiedTime:1969-12-31 16:00:00
status:Unconfirmed
```

#### 戻り値

値	エラー
0	成功
1	エラー

#### 関連コマンド

- 2.10 GetHost (gethost)
- 2.11 GetHostAlert (gethostalert)

## 2.10 GetHost (gethost)

**GetHost** コマンドを使用して、すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する要約情報を取得します。

hostname オプションを指定しないで **GetHost** を実行すると、すべての管理対象ホストに関する要約情報を取得できます。



重要 **GetHost** コマンドの代わりに、**gethost** という別名も使用できます。

#### 権限

Admin, Modify, View

#### 構文

```
csml {GetHost | gethost} [hostname=hostname] [-count] [-describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

#### オプション

**GetHost** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
hostname	情報を取得するホストの名称です。
count	ホスト数を表示します。
describe	<b>GetHost</b> コマンドの各属性についての情報を表示します。
format	HCSM CLI の出力を xml, カンマ区切り (csv), またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

#### 例

HostSystem1 のホスト要約情報を表示する例を次に示します。

```
client1>csml gethost hostname=HostSystem1
Host Instance
```



```

hostName:HostSystem1
osName:Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
manufacturer:VMware, Inc.
ipAddress:172.17.79.48
productName:VMware Virtual Platform
hostStatus:Running
serialNumber:EEDB1242-F9DE-59AA-E92D-CE2200213535
lastRefreshed:2011-08-29 15:59:06
error:46
warning:38
information:28

```

#### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

#### 関連コマンド

2.11 GetHostAlert (gethostalert)

## 2.11 GetHostAlert (gethostalert)

**GetHostAlert** コマンドを使用して、すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関するアラート情報を取得します。

hostname オプションを指定しないで **GetHostAlert** を実行すると、すべての管理対象ホストに関するアラートの詳細情報を取得できます。



重要 **GetHostAlert** コマンドの代わりに、**gethostalert** という別名も使用できます。

#### 権限

Admin, Modify, View

#### 構文

```

csm {GetHostAlert | gethostalert} [hostname=hostname] [-count] [-describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]

```

#### オプション

**GetHostAlert** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
hostname	アラート情報を取得するホストの名称です。
count	アラートの件数を表示します。
describe	<b>GetHostAlert</b> コマンドの各属性についての情報を表示します。
format	HCSM CLI の出力を xml, カンマ区切り (csv), またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

## 例

`gethostalert -count` コマンドを使用して、すべてのホストのアラート件数を表示する例を次に示します。

```
client1>csm gethostalert -count
```

```
112
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

- 2.9 GetAlerts (`getalerts`)
- 2.10 GetHost (`gethost`)

## 2.12 GetHostCPU (`getcpu`)

`GetHostCPU` コマンドを使用して、すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する CPU の詳細情報を取得します。

`hostname` オプションを指定しないで `GetHostCPU` を実行すると、すべての管理対象ホストに関する CPU の詳細情報を取得できます。



重要 `GetHostCPU` コマンドの代わりに、`getcpu` という別名も使用できます。

## 権限

Admin, Modify, View

## 構文

```
csm {GetHostCPU | getcpu} [hostname=hostname] [-count] [-describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

## オプション

`GetHostCPU` コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
<code>hostname</code>	CPU の詳細情報を取得するホストの名称です。
<code>count</code>	ホスト数を表示します。
<code>describe</code>	<code>GetHostCPU</code> コマンドの各属性についての情報を表示します。
<code>format</code>	HCSM CLI の出力を <code>xml</code> 、カンマ区切り ( <code>csv</code> )、またはヘッダなし <code>csv</code> 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

## 例

次のコマンドを使用して、`HostSystem2` の CPU の詳細情報を取得します。

```
client1>csm GetHostCPU hostname=HostSystem2
Cpu Instance
  hostName:HostSystem2
  cpuName:Intel(R) Xeon(R) CPU X5670 @ 2.93GHz
  frequencyInMhz:2933.0
  numberOfCpus:2
  numberOfCores:1
  l2CacheSizeInKB:
  l3CacheSizeInKB:
```

#### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

#### 関連コマンド

- [2.10 GetHost \(gethost\)](#)

## 2.13 GetHostFCNetwork (getfc)

**GetHostFCNetwork** コマンドを使用して、すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する FC (Fibre Channel) アダプタの詳細情報を取得します。

hostname オプションを指定しないで **GetHostFCNetwork** を実行すると、すべての管理対象ホストに関する FC アダプタの詳細情報を取得できます。



重要 **GetHostFCNetwork** コマンドの代わりに、**getfc** という別名も使用できます。

#### 権限

Admin, Modify, View

#### 構文

```
csm {GetHostFCNetwork | getfc} [hostname=hostname] [-count] [-describe]
[-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

#### オプション

**GetHostFCNetwork** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
hostname	FC アダプタの詳細情報を取得するホストの名称です。
count	FC アダプタの合計数を表示します。
describe	GetHostFCNetwork コマンドの各属性についての情報を表示します。
format	HCSM CLI の出力を xml, カンマ区切り (csv), またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

#### 例

次のコマンドを使用して、HostSystem1 の FC アダプタの詳細情報を取得します。

```
client1>csm GetHostFCNetwork hostname=HostSystem1
FCNetwork Instance
  hostName:HostSystem1
  adapterName: Hitachi HFCE0802          FW:0030044D DRV:4.1.6.790
  wwpn: 23:45:67:89:AB:CD:EF:00
  wwnn: 23:45:67:89:AB:CD:EF:01
```

#### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

#### 関連コマンド

- [2.10 GetHost \(gethost\)](#)
- [2.15 GetHostIPNetwork \(getip\)](#)

## 2.14 GetHostFileSystem (getfilesystem)

**GetHostFileSystem** コマンドを使用して、すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関するファイルシステムの詳細情報を取得します。

hostname オプションを指定しないで **GetHostFileSystem** を実行すると、すべての管理対象ホストに関するファイルシステムの詳細情報を取得できます。



重要 **GetHostFileSystem** コマンドの代わりに、**getfilesystem** という別名も使用できます。

#### 権限

Admin, Modify, View

#### 構文

```
csm {GetHostFileSystem | getfilesystem} [hostname=hostname] [-count] [-describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

#### オプション

**GetHostFileSystem** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
hostname	ファイルシステムの詳細情報を取得するホストの名称です。
count	ファイルシステムの合計数を表示します。
describe	<b>GetHostFileSystem</b> コマンドの各属性についての情報を表示します。
format	HCSM CLI の出力を xml, カンマ区切り (csv), またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

#### 例

次のコマンドを使用して、HostSystem1 のファイルシステムの詳細情報を取得します。

```
client1>csm GetHostFileSystem hostname=HostSystem1
FileSystem Instance
  hostName:HostSystem1
  driveName:C:
  driveType:Local Disk
  fileType:NTFS
  totalSizeInMB:476937.5
  usedSizeInMB:109374.1
  freeSizeInMB:367563.3
```

#### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

#### 関連コマンド

2.10 GetHost (gethost)

## 2.15 GetHostIPNetwork (getip)

**GetHostIPNetwork** コマンドを使用して、すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する LAN の詳細情報を取得します。

hostname オプションを指定しないで **GetHostIPNetwork** を実行すると、すべての管理対象ホストに関する LAN の詳細情報を取得できます。



重要 **GetHostIPNetwork** コマンドの代わりに、**getip** という別名も使用できます。

#### 権限

Admin, Modify, View

#### 構文

```
csm {GetHostIPNetwork | getip} [hostname=hostname] [-count] [-describe]
[-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

#### オプション

**GetHostIPNetwork** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
hostname	LAN の詳細情報を取得するホストの名称です。
count	LAN の合計数を表示します。
describe	<b>GetHostIPNetwork</b> コマンドの各属性についての情報を表示します。
format	HCSM CLI の出力を xml, カンマ区切り (csv), またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

## 例

次のコマンドを使用して、HostSystem1 の LAN の詳細情報を取得します。

```
client1>csm GetHostIPNetwork hostname=HostSystem1
IpAddress Instance
  hostName:HostSystem1
  adapterName:Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection
  adapterType:port
  ipAddress:172.17.79.48
  subnetMask:255.255.255.0
  networkAddress:172.17.79.0
  macAddress:00:50:56:92:00:59
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

- [2.10 GetHost \(gethost\)](#)
- [2.13 GetHostFCNetwork \(getfc\)](#)

## 2.16 GetHostMemory (getmemory)

**GetHostMemory** コマンドを使用して、すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関するメモリの詳細情報を取得します。

hostname オプションを指定しないで **GetHostMemory** を実行すると、すべての管理対象ホストに関するメモリの詳細情報を取得できます。



重要 **GetHostMemory** コマンドの代わりに、**getmemory** という別名も使用できます。

## 権限

Admin, Modify, View

## 構文

```
csm {GetHostMemory | getmemory} [hostname=hostname] [-count] [-describe]
[-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

## オプション

**GetHostMemory** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
hostname	メモリの詳細情報を取得するホストの名称です。
count	ホスト数を表示します。
describe	GetHostMemory コマンドの各属性についての情報を表示します。

オプション	説明
format	HCSM CLI の出力を xml, カンマ区切り (csv), またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

### 例

次のコマンドを使用して、HostSystem1 のメモリの詳細情報を取得します。

```
client1>csm GetHostMemory hostname=HostSystem1
Memory Instance
  hostname:HostSystem1
  totalSizeInMB:3.4
  maxPageFileSizeInMB:1.9
```

### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

### 関連コマンド

[2.10 GetHost \(gethost\)](#)

## 2.17 GetHostOs (getos)

GetHostOs コマンドを使用して、すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する OS 情報を取得します。

hostname オプションを指定しないで GetHostOS を実行すると、すべての管理対象ホストに関する OS 情報を取得できます。



重要 GetHostOs コマンドの代わりに、**getos** という別名も使用できます。

### 権限

Admin, Modify, View

### 構文

```
{GetHostOs | getos} [hostname=hostname] [-count] [-describe] [-format
{csv | csv-no-header | xml}]
```

### オプション

GetHostOs コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
hostname	OS 情報を取得するホストの名称です。
count	ホスト数を表示します。
describe	GetHostOs コマンドの各属性についての情報を表示します。

オプション	説明
format	HCSM CLI の出力を xml, カンマ区切り (csv), またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

## 例

次のコマンドを使用して、HostSystem1 のホスト OS 情報を取得します。

```
Client1>csm GetHostOs hostname=HostSystem1
OS Instance
  hostName:HostSystem1
  uuid:1E870542-5C8A-9DB3-670F-5D8F02A64F17
  osName:Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
  servicePackVersion:0
  osVersion:6.1.7600
  domainName:gse.hds.com
  description:
  lastReboot:2011-10-03 19:36:17
  smt:Disable
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

2.10 GetHost (gethost)

## 2.18 GetHostPCI (getpci)

**GetHostPCI** コマンドを使用して、すべての管理対象ホストまたは特定のホストに関する PCI の詳細情報を取得します。

hostname オプションを指定しないで **GetHostPCI** を実行すると、すべての管理対象ホストに関する PCI の詳細情報を取得できます。



重要 **GetHostPCI** コマンドの代わりに、**getpci** という別名も使用できます。

### 権限

Admin, Modify, View

### 構文

```
csm {GetHostPCI | getpci} [hostname=hostname] [-count] [-describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

### オプション

**GetHostPCI** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。



オプション	説明
hostname	PCIの詳細情報を取得するホストの名称です。
count	管理対象ホストで利用できるPCIデバイスの合計数を表示します。
describe	<b>GetHostPCI</b> コマンドの各属性についての情報を表示します。
format	HCSM CLI の出力を xml, カンマ区切り (csv), またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

### 例

次のコマンドを使用して、すべてのホストの PCI デバイス数を取得します。

```
Client1>csm GetHostPCI -count
82
```

### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

### 関連コマンド

2.10 GetHost (gethost)

## 2.19 GetHostRemoteManagement (getrmtgmt)

**GetHostRemoteManagement** コマンドを使用して、LOM が設定された管理対象ホストまたは特定のホストのデバイス情報を取得します。

hostname オプションを指定しないで **GetHostRemoteManagement** を実行すると、すべての管理対象ホストに関する遠隔管理デバイスの詳細情報を取得できます。



重要 **GetHostRemoteManagement** コマンドの代わりに、**getrmtgmt** という別名も使用できます。

### 権限

Admin, Modify, View

### 構文

```
{GetHostRemoteManagement | getrmtgmt} [hostname=hostname] [-count] [-describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

### オプション

**GetHostRemoteManagement** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
hostname	LOM が設定されたホストの名称です。
count	LOM が設定されたホスト数を表示します。

オプション	説明
describe	<b>GetHostRemoteManagement</b> コマンドの各属性についての情報を表示します。
format	HCSM CLI の出力を xml, カンマ区切り (csv), またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

## 例

次のコマンドを使用して、LOM が設定されたすべての管理対象ホストデバイスの詳細情報を取得します。

```
client1>csm GetHostRemoteManagement
LOMSetting Instance
  hostName:HostSystem2
  ipAddress:192.168.0.102
  credentialName:IPMICredential-1
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

[2.10 GetHost \(gethost\)](#)

## 2.20 GetTaskInfo (gettaskinfo)

**GetTaskInfo** コマンドを使用して、次の情報を入手します。

- HCSM の GUI で登録されたすべてのタスクの状態
- HCSM CLI で登録されたすべてのタスクの状態
- 名称や ID で指定した特定のタスクの状態
- 特定の状態のタスク ID 値

オプションを指定しないで **GetTaskInfo** を実行すると、In Progress の状態で HCSM CLI で登録された、すべてのタスクの ID が表示されます。

タスクについての詳細情報は、マニュアル「*Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。



重要 **GetTaskInfo** コマンドの代わりに、**gettaskinfo** という別名も使用できます。

## 権限

Admin, Modify, View

## 構文

```
csm GetTaskInfo [id=task-id] [name=task-name] [status={In Progress | InProgress | Waiting | Cancelled | Completed | Failed | All}] [type={cli | gui}] [-format {csv | csv-no-header | xml}] [-count]
```

## オプション

**GetTaskInfo** コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
id	<i>task-id</i> (登録されたタスクの ID 値) で指定したタスクの現在の状態を表示します。 このオプションは、name オプションや status オプションでは指定できません。
name	<i>task-name</i> で指定したタスクの現在の状態を表示します。 このオプションは、id オプションや status オプションでは指定できません。
status	次の各状態のタスク ID を表示します。各状態の値は、大文字と小文字を区別します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Waiting</li><li>• In Progress (または InProgress)</li><li>• Cancelled</li><li>• Completed</li><li>• Failed</li><li>• All</li></ul> デフォルトの状態は In Progress です。 このオプションは、id オプションや name オプションでは指定できません。
type	タスクと登録した管理クライアントの種別 (cli または gui) を指定します。デフォルトの値は cli です。 このオプションは、id、name、status などのオプションでは指定できません。
format	HCSM CLI の出力を xml、カンマ区切り (csv)、またはヘッダなし csv 形式で表示します。このオプションを指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。
count	タスクの件数を表示します。

## 例

次のコマンドを使用して、「Reboot OS-3」という名称のタスクに関する情報を取得します。

```
client1>csm GetTaskInfo name="Reboot OS-3"
TaskExecutionInfo Instance
  taskID:400000000001538
  taskName:Power On-1
  status:SCHEDULED
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

なし

## 2.21 PowerOFF (poweroff)

**PowerOFF** コマンドを使用して、特定のホストまたはホストのグループの電源を OFF にします。



重要 **PowerOFF** コマンドの代わりに、**poweroff** という別名も使用できます。

## 権限

Admin, Modify

## 構文

```
csm {PowerOFF | poweroff} ipaddress=ip_address[,ip_address...]  
[elapsedTime=elapsed-time] [notification={send | not_send |  
send_only_failed}] [schedule=Now | Later] [date="YYYY/MM/DD HH:MM:SS"]
```

## オプション

PowerOFF コマンドを使用して、次のパラメータを指定できます。

オプション	説明
ipaddress	電源を切るホストの IP アドレスです。複数のホストの電源を切る場合、一連の IP アドレスをカンマ区切りで指定します。 少なくとも 1 つの IP アドレスを指定する必要があります。
elapsedTime	1 つのホストに対し、電源が OFF になるまでのタイムアウト時間です。0 から 9999 (単位:分) の値を指定できます。0 を指定すると、elapsedTime には HCSM の GUI で指定された値が設定されます。
notification	E メール通知を設定します。値には send, not_send, または send_only_failed を指定できます。デフォルトの値は not_send です。
schedule	ホストの電源を切るタイミングを示します。値には Now または Later を指定できます。Later を指定した場合、オプション date もあわせて指定してください。デフォルトの値は Now です。
date	ホストの電源を切る日付と時刻を YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で示します。この値は、「"」で囲む必要があります。schedule=Later を指定した場合、このオプションは必須になります。

## 例

次のコマンドを実行すると、2011 年 9 月 21 日の 12:05:05 に、IP アドレスが「172.168.34.21」のホストの電源が切れます。

```
client1> csm PowerOFF ipaddress=172.168.34.21 schedule=Later  
date="2011/09/21 12:05:05"
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

- 2.22 PowerON (poweron)
- 2.23 RebootOS (rebootos)
- 2.24 ShutdownOS (shutdownos)

## 2.22 PowerON (poweron)

PowerON コマンドを使用して、特定のホストまたはホストのグループの電源を ON にします。



重要 PowerON コマンドの代わりに、**poweron** という別名も使用できます。

## 権限

Admin, Modify

## 構文

```
csm {PowerON | poweron} ipaddress=ip_address[,ip_address...]  
[elapsedTime=elapsed-time] [notification={send | not_send |  
send_only_failed}] [schedule=Now | Later] [date="YYYY/MM/DD HH:MM:SS"]
```

## オプション

PowerON コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
ipaddress	電源を ON にするホストの IP アドレスです。複数のホストの電源を ON にする場合、一連の IP アドレスをカンマ区切りで指定します。少なくとも 1 つの IP アドレスを指定する必要があります。
elapsedTime	1 つのホストに対し、電源が ON になるまでのタイムアウト時間です。0 から 9999 (単位:分) の値を指定できます。0 を指定すると、elapsedTime には HCSM の GUI で指定された値が設定されます。
notification	E メール通知を設定します。値には send, not_send, または send_only_failed を指定できます。デフォルトの値は not_send です。
schedule	ホストの電源を入れる時間を示します。値には Now または Later を指定できます。Later を指定した場合、オプション date もあわせて指定してください。デフォルトの値は Now です。
date	ホストの電源を入れる日付と時刻を YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で示します。この値は、「"」で囲む必要があります。schedule=Later を指定する場合、このオプションは必須になります。

## 例

次のコマンドを実行すると、2011 年 9 月 21 日の 12:05:05 に、IP アドレスが「172.168.34.21」のホストの電源が入ります。

```
client1> csm PowerON ipaddress=172.168.34.21 schedule=Later  
date="2011/09/21 12:05:05"
```

## 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

- 2.21 PowerOFF (poweroff)
- 2.23 RebootOS (rebootos)
- 2.24 ShutdownOS (shutdownos)

## 2.23 RebootOS (rebootos)

RebootOS コマンドを使用して、特定のホストまたはホストのグループを再起動します。



重要 RebootOS コマンドの代わりに、**rebootos** という別名も使用できます。

### 権限

Admin, Modify

### 構文

```
{RebootOS | rebootos} ipaddress=ip_address[,ip_address...]  
[elapsedTime=elapsed-time] [notification={send | not_send |  
send_only_failed}] [schedule=Now | Later] [date="YYYY/MM/DD HH:MM:SS"]
```

### パラメータ

RebootOS コマンドを使用して、次のパラメータを指定できます。

オプション	説明
ipaddress	再起動するホストの IP アドレスです。複数のホストを再起動する場合、一連の IP アドレスをカンマ区切りで指定します。少なくとも 1 つの IP アドレスを指定する必要があります。
elapsedTime	1 つのホストに対し、再起動されるまでのタイムアウト時間です。0 から 9999 (単位: 分) の値を指定できます。0 を指定すると、elapsedTime には HCSM の GUI で指定された値が設定されます。
notification	E メール通知を設定します。値には send, not_send, または send_only_failed を指定できます。デフォルトの値は not_send です。
schedule	ホストを再起動する時間を示します。値には Now または Later を指定できます。Later を指定した場合、オプション date もあわせて指定してください。デフォルトの値は Now です。
date	ホストを再起動する日付と時刻を YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で示します。この値は、「"」で囲む必要があります。schedule=Later を指定する場合、このオプションは必須になります。

### 例

次のコマンドを実行すると、2011 年 9 月 21 日の 12:05:05 に、IP アドレスが「172.168.34.21」のホストが再起動されます。

```
client1> csm RebootOS ipaddress=172.168.34.21 schedule=Later  
date="2011/09/21 12:05:05"
```

### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

### 関連コマンド

- 2.21 PowerOFF (poweroff)

- 2.22 PowerON (poweron)
- 2.24 ShutdownOS (shutdownos)

## 2.24 ShutdownOS (shutdownos)

**ShutdownOS** コマンドを使用して、特定のホストまたはホストのグループをシャットダウンします。



重要 **ShutdownOS** コマンドの代わりに、**shutdownos** という別名も使用できます。

### 権限

Admin, Modify

### 構文

```

csm {ShutdownOS | shutdownos} ipaddress=ip_address[,ip_address...]
[elapseTime=elapse-time] [notification={send | not_send |
send_only_failed}] [schedule=Now | Later] [date="YYYY/MM/DD HH:MM:SS"]

```

### オプション

ShutdownOS コマンドを使用して、次のオプションを指定できます。

オプション	説明
ipaddress	シャットダウンするホストの IP アドレスです。複数のホストをシャットダウンする場合、一連の IP アドレスをカンマ区切りで指定します。少なくとも 1 つの IP アドレスを指定する必要があります。
elapseTime	1 つのホストに対し、シャットダウンされるまでのタイムアウト時間です。0 から 9999 (単位:分) の値を指定できます。0 を指定すると、elapseTime には HCSM の GUI で指定された値が設定されます。
notification	E メール通知を設定します。値には send, not_send, または send_only_failed を指定できます。デフォルトの値は not_send です。
schedule	ホストをシャットダウンする時間を示します。値には Now または Later を指定できます。Later を指定した場合、オプション date もあわせて指定してください。デフォルトの値は Now です。
date	ホストをシャットダウンする日付と時刻を YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で示します。この値は、「"」で囲む必要があります。schedule=Later を指定する場合、このオプションは必須になります。

### 例

次のコマンドを実行すると、2011 年 9 月 21 日の 12:05:05 に、IP アドレスが「172.168.34.21」のホストがシャットダウンされます。

```

client1> csm ShutdownOS ipaddress=172.168.34.21 schedule=Later
date="2011/09/21 12:05:05"

```

### 戻り値

値	意味
0	成功
1	エラー

## 関連コマンド

- 2.21 PowerOFF (poweroff)
- 2.22 PowerON (poweron)
- 2.23 RebootOS (rebootos)



# トラブルシューティング

HCSM CLI のトラブルシューティング情報について説明します。

## □ 3.1 JRE のトラブルシューティング

## 3.1 JRE のトラブルシューティング

JRE のバージョンが 6 以外の場合、クライアント環境で CLI コマンドを実行すると、次のエラーが出力されます。

```
Exception in thread "main"  
java.lang.UnsupportedClassVersionError:Bad version number in .class file  
at java.lang.ClassLoader.defineClass1(Native Method)  
at java.lang.ClassLoader.defineClass(ClassLoader.java:621)  
at java.security.SecureClassLoader.defineClass(SecureClassLoader.java:  
124)  
at java.net.URLClassLoader.defineClass(URLClassLoader.java:260)  
at java.net.URLClassLoader.access$100(URLClassLoader.java:56)  
at java.net.URLClassLoader$1.run(URLClassLoader.java:195)  
at java.security.AccessController.doPrivileged(Native Method)  
at java.net.URLClassLoader.findClass(URLClassLoader.java:188)  
at java.lang.ClassLoader.loadClass(ClassLoader.java:307)  
at sun.misc.Launcher$AppClassLoader.loadClass(Launcher.java:268)  
at java.lang.ClassLoader.loadClass(ClassLoader.java:252)  
at java.lang.ClassLoader.loadClassInternal(ClassLoader.java:320)
```

この問題を解決するには、次の手順に従ってください。

1. HCSM CLI のコマンドを実行するクライアントマシンに JRE6 がインストールされていることを確認します。
2. HCSM\_CLI\_JRE\_PATH 環境変数に、手順 1 で確認した、JRE がインストールされているパスを指定します。
3. コマンドプロンプトを開き、コマンドを実行します。

## このマニュアルの参考情報

ここでは、このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明します。

- [A.1 関連マニュアル](#)
- [A.2 このマニュアルでの表記](#)
- [A.3 KB \(キロバイト\) などの単位表記について](#)

## A.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- *Hitachi Command Suite Compute Systems Manager Software ユーザーズガイド* (3020-3-V91)
- *Hitachi Command Suite Compute Systems Manager Software 導入・設定ガイド* (3020-3-V92)
- *Hitachi Command Suite Compute Systems Manager Software メッセージガイド* (3020-3-V94)
- *Hitachi Command Suite Software メッセージガイド* (3020-3-W05)

## A.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	製品名
BMC	Baseboard Management Controller
CLI	Command Line Interface
Device Manager	Hitachi Device Manager
Dynamic Link Manager	Hitachi Dynamic Link Manager
FC	Fibre Channel
Global Link Manager	Hitachi Global Link Manager
HBA	Host Bus Adapter
IPMI	Intelligent Platform Management Interface
JDK	Java Development Kit
JRE	Java Runtime Environment
Linux	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle Enterprise Linux<sup>®</sup></li><li>• Oracle Linux<sup>®</sup></li><li>• Red Hat Enterprise Linux<sup>®</sup></li><li>• SUSE Linux<sup>®</sup> Enterprise Server</li></ul>
LOM	Lights-out Management
Oracle Linux	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle Enterprise Linux<sup>®</sup></li><li>• Oracle Linux<sup>®</sup></li></ul>
Red Hat Linux	Red Hat Enterprise Linux <sup>®</sup>
Replication Manager	Hitachi Replication Manager
SAN	Storage Area Network
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
SUSE Linux	SUSE Linux <sup>®</sup> Enterprise Server
Tiered Storage Manager	Hitachi Tiered Storage Manager
Tuning Manager	Hitachi Tuning Manager
VMware	VMware <sup>®</sup>
VMware ESX/ESXi	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• VMware vSphere<sup>®</sup> ESX</li></ul>

表記	製品名
	• VMware vSphere® ESXi™

## A.3 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、 $1,024^2$  バイト、 $1,024^3$  バイト、 $1,024^4$  バイトです。



# 用語解説

HCSM CLI を使用するために理解しておきたい用語の意味について解説します。

## (英字)

### CSR

Certificate Signing Request (証明書署名要求) の略。申請者がデジタル証明書の発行を請求するために、認証局に送信するメッセージです。

### DCOM

Distributed Component Object Model (分散 COM 機能) の略。クライアントプログラムがネットワーク上に分散配置されたコンピュータからサービスを要求できる Windows のインターフェースです。

### DNS

Domain Name System (ドメイン名システム) の略。階層状に分散したコンピュータの命名システムです。

### FC 情報ツール

Fibre Channel Information Tool (ファイバーチャネル情報ツール) のこと。Windows のサーバで使用するツールで、SAN ストレージに接続されたサーバのファイバーチャネル情報を遠隔地から収集できます。

### GUI

Graphical User Interface (グラフィカルユーザーインターフェース) の略。HCSM では、管理クライアント上で、管理機能を実行するために使用する WEB ベースのユーザーインターフェースのことを指します。

### Java スレッド

Java プログラムの実行パスです。

### Java のヒープダンプ

すべての Java オブジェクトとクラスを記録したもので、トラブルシューティング診断に使用します。ヒープダンプは、ライブオブジェクトとクラスをすべてダンプしたものです。

### LDAP ディレクトリサーバ

LDAP は Lightweight Directory Access Protocol の略。ユーザーアカウント情報など、分散されたディレクトリサービスを提供するサーバです。

### LOM

ホストのハードウェア動作状況をリモート監視・制御する機能です。HCSM CLI で扱う LOM は、HCSM の GUI の BMC (Baseboard Management Controller) と同義です。

## MIB ファイル

MIB は Management Information Base の略。ネットワーク管理システムから監視できるオブジェクトのデータベースです。SNMP では標準化された MIB を使用することで、MIB ファイルで定義されたデバイスを SNMP ツールが監視できるようになっています。

## OID

Object Identifier の略。管理対象オブジェクトを一意に特定します。SNMP トラップは、固有の OID を持つことでお互いを区別します。

## RMI リクエスト

RMI は Remote Method Invocation の略。遠隔地にあるコンピュータでプログラムを起動するためのリクエストです。

## root

すべてのコマンドとファイルにアクセスできる Linux のユーザーアカウントです。

## SNMP トラップ

エラーや障害などを通知する、SNMP エージェントによって管理対象リソースから作成されるイベントです。

## SSH

Secure SHell の略。セキュアなデータ通信のためのネットワークプロトコルです。

## SRV レコード

SRV は Service の略。サーバまたはサービスの場所 (ホスト名とポート番号) を定義するための DNS 内のレコードです。

## SSL

Secure Sockets Layer の略。安全なデータ通信のためのネットワークプロトコルです。

## su コマンド

Linux システム上で、実行ユーザーを変更するためのコマンドです。

## sudo コマンド

Linux システム上で、一般ユーザー権限でログインしているユーザーが、特定のコマンドを root 権限で実行させるためのコマンドです。

## TLS

Transport Layer security の略。セキュアなデータ通信のためのネットワークプロトコルです。

## UAC

User Access Control の略。Windows Server 2008 に実装されているユーザーアカウント制御です。

## WoL (Wake-on-Lan)

ネットワーク経由でサーバの電源を ON にするための機能です。

## WMI

Windows Management Instrumentation の略。Windows デバイスを管理するための方式です。HCSM では、WMI を用いて Windows ホストに接続しています。

## (ア行)

### アラート

管理対象リソースのコンポーネント上で、エラーや障害などの特定のイベントが発生したことを示す通知です。



## (カ行)

### 管理クライアント

Web クライアントまたは CLI クライアントの操作に使用するコンピュータです。

### 管理対象

HCSM の管理対象となっている IP アドレス範囲内にある任意のシステムのことです。

### 管理対象リソース

ホストなど HCSM によって管理される任意のシステムです。

### 基本 DN

Active Directory 階層での開始点です。ここから検索を開始します。

## (サ行)

### 自己署名証明書

認証局が発行するのではなく、証明書の作成者が署名したデジタル証明書です。

### 証明書

SSL で使用するデジタル証明書です。通信が開始される前に、ブラウザによって証明書が調査され、本物かどうか判断されます。

## (タ行)

### 探索

ネットワークのオブジェクトを見つけて特定するプロセスです。HCSM では、指定した IP アドレス範囲内を探索すると、該当するすべてのホストを見つけて特定できます。探索されたホストは、自動的に HCSM の管理対象になります。

### デーモン

バックグラウンドで実行される Linux のプログラムです。

### デバイス

特定の機能を持つ物理ユニットまたは論理ユニットです。

## (ハ行)

### プライベートキー

セキュアな通信をする当事者だけが知っている暗号化／復号化のためのキーです。

### プロパティファイル

運用環境を定義するファイルです。該当するプロパティファイルを変更することで、運用環境を変更できます。

## (マ行)

### メモリヒープ

起動時に作成される内部メモリプールのことです。タスクは必要に応じて、動的に割り当てられたメモリを使用します。



# 索引

## C

### CLI

- インストールする 12
- トラブルシューティング 42
- ヘルプを取得する 21
- ログアウトする 20
- ログインする 19
- 環境変数 12
- CLI からログアウトする 20
- CLI にログインする 13, 19
- configure コマンド 13, 19
- CPU 詳細 26
- CSMcli
  - 設定する 12
- CSMcli.win.exe 13
- CSMHOME 12

## G

- GetAlerts コマンド 23
- getalerts コマンド 23
- getcpu コマンド 26
- getfc コマンド 27
- getfilesystem コマンド 28
- GetHostAlert コマンド 25
- gethostalert コマンド 25
- GetHostCPU コマンド 26
- GetHostFCNetwork コマンド 27
- GetHostFilesystem コマンド 28
- GetHostIPNetwork コマンド 29
- GetHostMemory コマンド 30
- GetHostOs コマンド 31
- GetHostPCI コマンド; 32
- GetHostRemoteManagement コマンド 33
- GetHost コマンド 24
- gethost コマンド 24
- getip コマンド 29

- getmemory コマンド 30
- getos コマンド 31
- getpci コマンド 32
- getrmtgmt コマンド 33
- GetTaskInfo コマンド 34
- gettaskinfo コマンド 34

## H

- HCSM\_CLI\_JRE\_PATH 12
- help コマンド 21

## J

- JRE
  - トラブルシューティング 42

## L

- login コマンド 13, 19
- logout コマンド 20

## O

- OS 詳細 31

## P

- PCI 詳細を取得する 32
- ping コマンド 21
- PowerOFF コマンド 35
- poweroff コマンド 35
- PowerON コマンド 36
- poweron コマンド 36

## R

RebootOS コマンド 38  
rebootos コマンド 38

## S

SAN, ファイバーチャネルの詳細 27  
ShutdownOS コマンド 39  
shutdownos コマンド 39

## あ

アラート  
in progress 23  
resolved 23  
unconfirmed 23  
ホスト詳細 25

## い

インストールする  
CLI 12

## こ

コマンドの実行結果を出力する 17  
コマンド権限 18

## す

スケジュールを設定する  
ホストのシャットダウン 39

## た

ダウンロードする  
JRE 12

## と

トラブルシューティング  
CLI 42  
JRE 42

## ふ

ファイバーチャネルアダプタ, 詳細 27  
ファイルシステムの詳細 28

## へ

ヘルプを取得する 21

## ほ

ホスト  
CPU 詳細 26  
LAN 詳細 29  
アラート 23  
アラート詳細 25  
シャットダウンする 39  
ファイバーチャネルアダプタの詳細 27  
ファイルシステムの詳細 28  
メモリ詳細 30  
再起動する 38  
要約情報 24  
遠隔管理の詳細 33  
電源を OFF にする 35  
電源を ON にする 36  
ホストの電源を OFF にする 35  
ホストの電源を ON にする 36  
ホストをシャットダウンする 39  
ホストを再起動する 38

## ろ

ログインセッション  
時間切れ 19